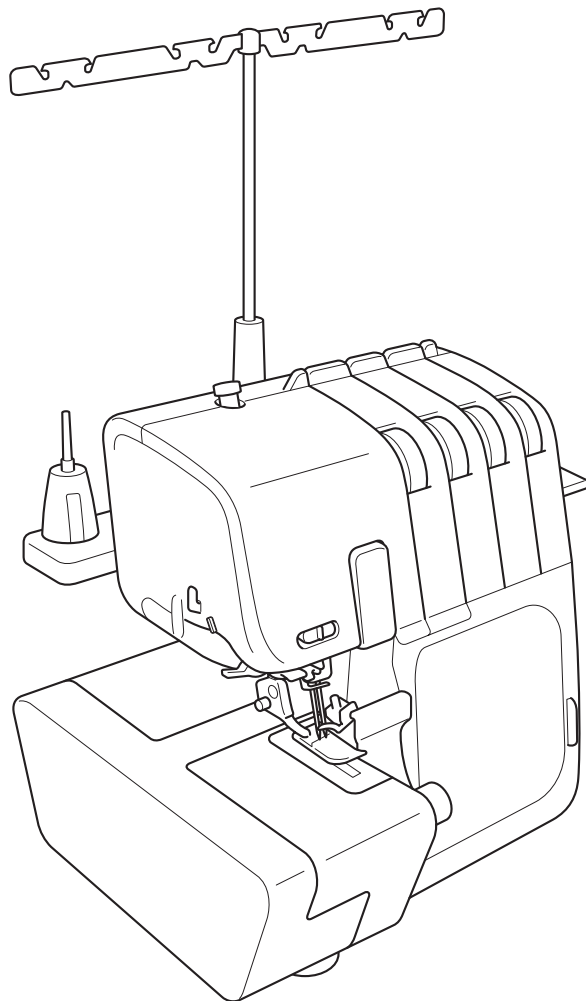
brother

LOB11 シリーズ

ロックミシン取扱説明書

- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
お使いになる前に以降の「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ、この取扱説明書をご覧になり、各機能の正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。
また、読み終わった後は保証書とともにお使いになれられる方が、いつでも見られるところに必ず保管してください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。その表示や意味は次のとおりです。

警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。

特定しない禁止事項	特定しない義務行為	感電の危険があります
手を針に近づけてはいけません	分解してはいけません	電源プラグを抜いてください
火災の危険があります	水に濡らしてはいけません	特定しない危険通告

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことがらを守ってください。

警告	
	必ず一般家庭用電源 AC100V の電源で使用してください。それ以外の電源で使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
	以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・運転中に停電したとき ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・雷が鳴りはじめたとき

⚠ 注意	
	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
	傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
	フットコントローラーは付属のものを使用してください。感電や発熱による火災の原因となります。
	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」0120-340-233 にご連絡ください。
	長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
	直射日光の当たるところや、ストーブやアイロンなど、火の気のある物のそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 0℃～ 40℃です。 ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
	野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。 また濡れた時はお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」0120-340-233 にご連絡ください。
	温度や湿度の高い所でのご使用や保管はさけてください。
	スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。
	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。 ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

⚠ 注意	
	ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30 cm 以上離してお使いください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。
	ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」0120-340-233 にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」0120-340-233 にご連絡ください。
	ミシン本体の重さは約 6kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。
	ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。
	お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」0120-340-233 にご依頼ください。
	取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。
	ミシン本体は、必ず取っ手を持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、ケガの原因となります。
	ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針・プーリー・メスなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」0120-340-233 にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」0120-340-233 にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。

⚠ 注意	
	ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
	お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がケガをしないよう十分注意してください。
	針の下に指などを入れないでください。ケガをするおそれがあります。
	糸通しに関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	フットコントローラーの上に物を置かないでください。 ケガ・故障の原因となります。
	ミシン本体の掃除に、ベンジン、シンナー等の薬品を使用しないでください。ミシンが故障する原因となります。
	押えや針などの部品を交換／取り付けする際は、必ず取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。

・このミシンは日本国内向け、家庭用です。海外では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
・仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
・本書の内容を許可なく無断で複製することは、禁じられておりますのでご了承ください。
・本書の内容を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
・本書の内容について万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら、「お客様相談室(ミシン119番)」フリーダイアル 0120-340-233 にご連絡ください。

警告ラベルについて

ミシンには以下の警告ラベルが貼られています。
警告ラベルの注意事項を守って作業を行ってください。

目次

第１章
各部の名称と基本操作

① 糸かけ
② 押え圧調節ねじ
③ 糸たて棒
④ スプールクッション
⑤ 糸立て台
⑥ 糸取りカバー
⑦ ミシン針
⑧ 補助テーブル
⑨ 押え
⑩ アームカバー
⑪ 左針用糸調子ダイヤル
⑫ 右針用糸調子ダイヤル
⑬ 上ルーパー用糸調子ダイヤル
⑭ 下ルーパー用糸調子ダイヤル
⑮ 前カバー
⑯ 押え上げレバー
⑰ 電源スイッチ
⑱ ぬい目の長さ調節ダイヤル
⑲ プーリー（必ず手前に回してください。）
⑳ 差動送り調節ダイヤル
㉑ かがり幅調節ダイヤル
㉒ 糸ガイド

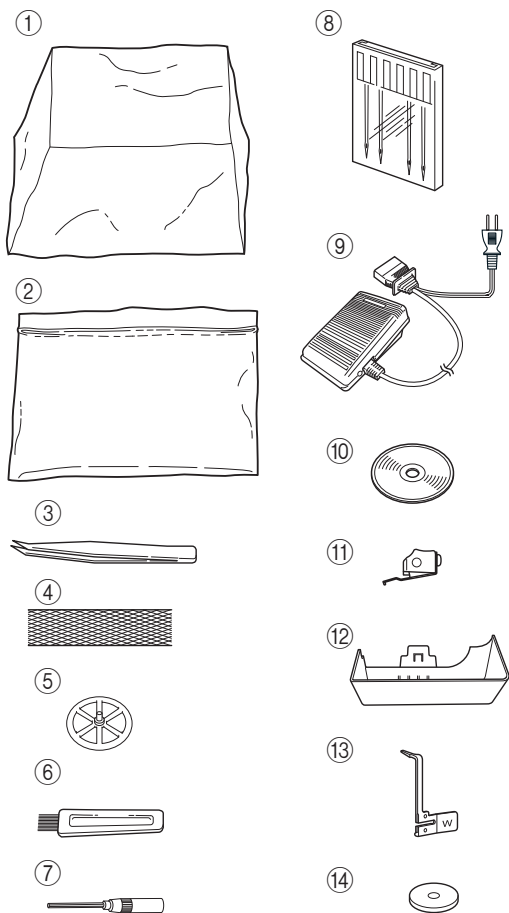
前カバー内部
<A> ピンセット（付属品）
㉓ 下ルーパー糸通しレバー
㉔ ルーパー用糸取り
㉕ 上ルーパー
㉖ 上メス
㉗ 下ルーパー
㉘ ステッチタング
㉙ メスの取っ手

1 アクセサリー収納スペース
付属品を収納できます。
<B> 2 本糸切換つまみ、<C> ミシン針セット、
<D> ドライバー

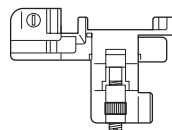
2 補助テーブル内収納スペース
取り外したステッチタングを収納できます。（取り外しは第 5 章「細ロックぬい、巻きぬいをする」参照）、
<E> ステッチタング、<F> ステッチタング W

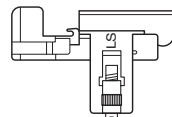
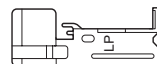
＊ : 換気口（背面）

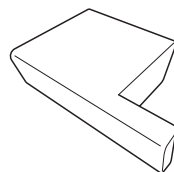
付属品

① ミシンカバー
② 付属品ケース
③ ピンセット
④ ネット（2 個）
⑤ 糸こまキャップ（4 個）
⑥ ミシンブラシ
⑦ ドライバー
⑧ ミシン針 (HLx5)
#11 (2 本)、#14 (2 本)
⑨ フットコントローラー
（モデル名：KD-1902）
⑩ 使いこなしガイド
⑪ 2 本糸切換つまみ
⑫ トリムボックス
⑬ ステッチタング W
⑭ 糸こまマット (4 個)

別売りオプション

用途に合わせて、以下の押えをご用意しています。

① まつりぬい押え
（モデル名：LF001）

② ギャザー押え
（モデル名：LF006）

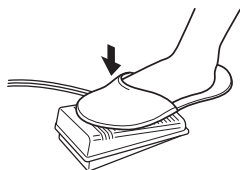
③ パール付け押え
（モデル名：LF004）

④ パイピング押え
（モデル名：LF005）

⑤ テープ付け押え
（モデル名：LF002）

⑥ ワイドテーブル
（モデル名：WTL1）

ミシンをスタートさせる

ミシンの電源を入れる

1. ミシンの右側面にあるソケットにフットコントローラーを接続します。電源プラグを家庭用電源コンセント (AC 100V) に差し込みます。
2. 電源スイッチの I 側を押して、電源を入れます。電源を切るときは、○側を押します。

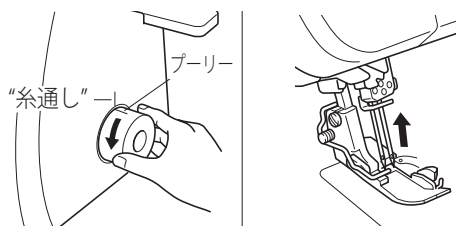
ミシンをスタートさせる

フットコントローラーを浅く踏み込むとゆっくり、深く踏み込むと速くぬい進めます。フットコントローラーから足を離すと、ミシンは止まります。

⚠ 注意

フットコントローラーは、必ず付属のものを使用してください。

プーリーの使い方

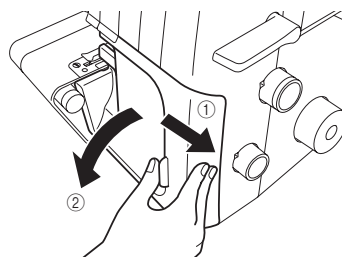
プーリーは、必ず手前（矢印方向）に回します。これは家庭用ミシンと同じ方向です。

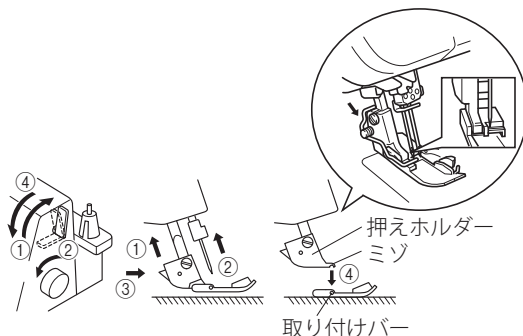
プーリーの印 をミシン本体側の "糸通し" の位置に合わせると、針が一番高い位置に上がります。

前カバーの開き方／閉め方

前カバーは、ミシンに糸を通すときなどに開きます。開くときは、前カバーを右にスライドさせ（①)、手前に倒します（②)。閉めるときは、前カバーを閉じて左にスライドさせます。

⚠ 注意

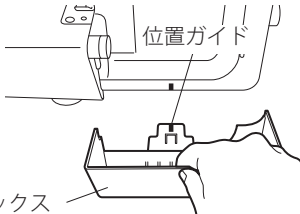
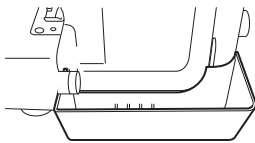
安全のため、ミシン操作中は前カバーを開かないでください。

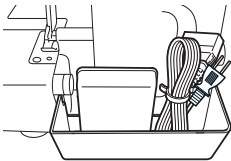
前カバーを開閉するときは、必ず事前にミシンの電源スイッチを切ってください。

押えの取り付け／取り外し

1. 電源スイッチを切ります。
2. 押え上げレバーを上げます（①)。
3. プーリーを回し、プーリーの印をミシン本体側の "糸通し" の位置に合わせます（②)。(第 1 章「プーリーの使い方」参照)
4. 押えホルダーの後ろのボタンを押すと、押えが外れます（③)。
5. 押え上げレバー（④）をさらに上げて、押えを一番高い位置まで上げます。押えホルダー の底のミゾと、取り付ける押えの取り付けバー の位置を合わせます。
6. 押えホルダーの後ろのボタンを押しながら、押え上げレバーを下げて押えを取り付けます。

トリムボックスの使い方

トリムボックスは、ぬっているときに出る布の切れ端や糸くずを受けるために使います。

取り付け方

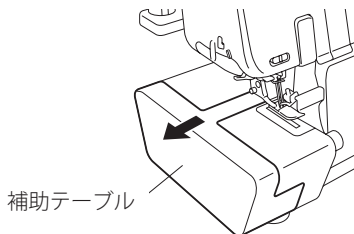
1. トリムボックスの位置ガイドをミシンの印に合わせます。

2. トリムボックスが前カバーにあたるまで挿入します。

お知らせ

トリムボックスは、ミシンを使用していないときにはフットコントローラーの収納に使用することもできます。

⚠ 注意

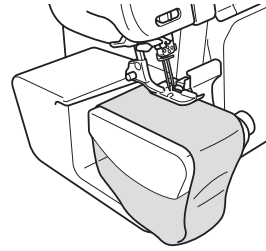
フットコントローラーをトリムボックスに入れたまま、ミシンを持ち運ばないでください。

フリーアームにする

筒状の布をぬうときは、補助テーブルを外してフリーアームにします。

1. 補助テーブルを外します。

お知らせ

取り外した補助テーブルは、なくさないように保管してください。

2. 布をセットし、ぬい始めます（第5章参照）。

布を切らずにぬう

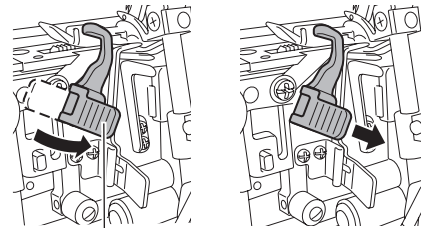
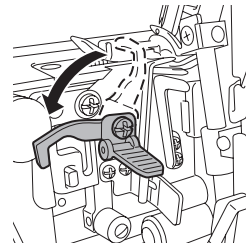
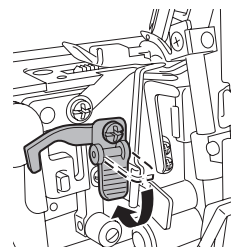
布を切らずにぬうときは、メスを収納しておきます。

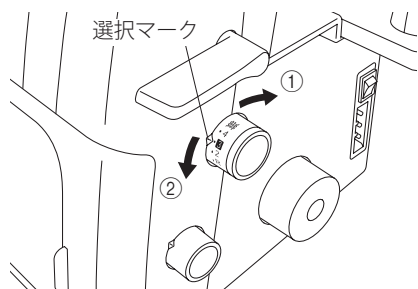
⚠ 注意

メスに触れないでください。

必ず針の位置が一番下にあることを確認してから、メスの取っ手を操作してください。

メスの収納は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

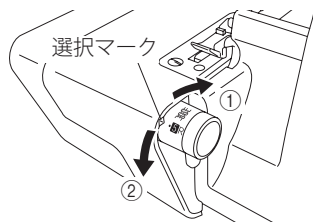
1. メスの取っ手を起こし、右に引き出します。

2. メスを手前に倒します。

3. 完全にメスを収納したら、メスの取っ手から手をはなします。

ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さは、通常 3mm に設定されています。ぬい目の長さは、ミシン右側面のぬい目の長さ調節ダイヤルで調節します。

① ぬい目を短くする
② ぬい目を長くする

※ダイヤルを R に合わせると、ぬい目の長さは約 0.8mm になります。

かがり幅を調節する

かがり幅は、かがり幅調節ダイヤルで調整します。

通常のロックぬいのかがり幅は 5mm に設定されています。

① かがり幅を広くする
② かがり幅を狭くする

差動送りを調節する

本ミシンの押えの下には、布を送るための送り歯が 2 歯備えられています。差動送りの調節とは、差動送り歯（前方）とメイン送り歯（後方）の布送り量を変えて、ぬい目を調節することです。

・差動送りを 1.0 に設定した場合：
　両送り歯は同じ布送り量で動きます。

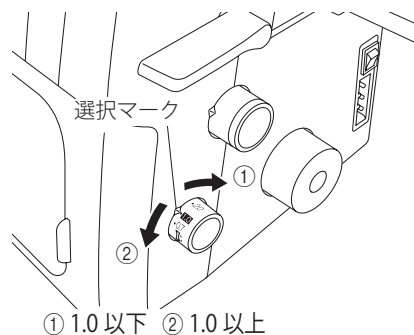
・差動送りを 1.0 未満に設定した場合：
　差動送り歯の布送り量はメイン送り歯の布送り量より小さく、布を伸ばしながらぬいます。薄地のパッカリングを防止します。

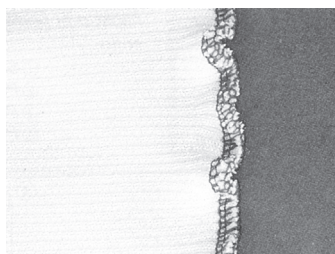
・差動送りを 1.0 を超える数値に設定した場合：
　差動送り歯の布送り量はメイン送り歯の布送り量より大きく、布を縮めながらぬいます。伸縮性のある布地のぬい伸びを防止します。

差動送り調節

差動送り調節値	メイン送り歯（後方）	差動送り歯（前方）	ぬい方	使用例
0.7 - 1.0			布を伸ばしながらぬう	薄地のパッカリング防止
1.0			通常通りぬう	通常のかがりぬい
1.0 - 2.0			布を縮めながらぬう	伸縮性のある布地のぬい伸び防止

差動送りは、ミシン右側面の差動送り調節ダイヤルでで調節します。

① 1.0 以下　② 1.0 以上

例：

差動送りの調節をしないで伸縮性のある布地をぬうと、布端が波状になってしまいます。

ぬい目をなめらかにするには、差動送りを 1.0 ～ 2.0 に調節します。

お知らせ

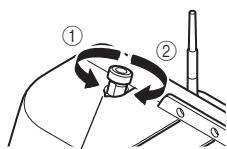
適切な調節値は、素材によって異なります。
適切な値を見つけるには、実際に試しぬいをしてください。

⚠ 注意

🚫 デニムのように厚地で伸縮性のない布地をぬう場合は、差動送りをしないでください。布地を傷める原因になります。

押え圧を調節する

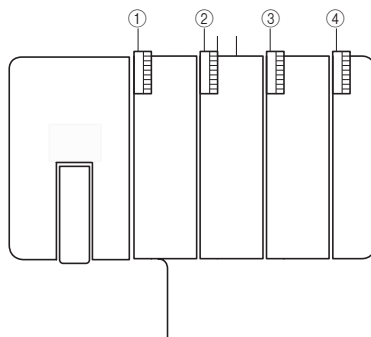
押え圧は、ミシン左上の押え圧調節ねじで調節します。

通常は 2 にセットします。

① 弱くする
② 強くする

糸調子を調節する

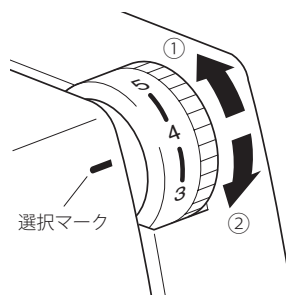
糸調子を調節する糸調子ダイヤルは、すべての針糸（2本)、下ルーパー糸、上ルーパー糸に対して 1 つずつあります。

お知らせ

適切な糸調子は、布地の種類や厚み、使用する糸によって異なります。糸調子は、布地や糸を変えるたびに調節しましょう。

① 黄色：左針用糸調子ダイヤル
② 緑色：右針用糸調子ダイヤル
③ ピンク：上ルーパー用糸調子ダイヤル
④ 青色：下ルーパー用糸調子ダイヤル

調節方法

通常、糸調子は 4 にセットします。

調節が必要なときは、糸調子ダイヤルを使って調節します。

① 弱くする
② 強くする

糸調子の調節：２本針（４本糸）の場合

糸調子を調節する場合は、以下の順番で行ってください。

① 左針糸
② 右針糸
③ 上ルーパー糸
④ 下ルーパー糸

糸調子の調節：1 本針（3 本糸）の場合

針糸
裏
表

針糸がゆるい

針糸の糸調子を強める（黄色または緑色）

針糸
下ルーパー糸
裏
表
上ルーパー糸

針糸がきつい

針糸の糸調子を弱める（黄色または緑色）

下ルーパー糸
裏
表
上ルーパー糸

上ルーパー糸がきつい

上ルーパー糸の糸調子を弱める（ピンク）

下ルーパー糸がゆるい

下ルーパー糸の糸調子を強める（青色）

下ルーパー糸
裏
表
上ルーパー糸

上ルーパー糸がゆるい

上ルーパー糸の糸調子を強める（ピンク）

下ルーパー糸がきつい

下ルーパー糸の糸調子を弱める（青色）

下ルーパー糸
裏
表
上ルーパー糸

上ルーパー糸がゆるい

下ルーパー糸がゆるい

上ルーパー糸の糸調子を強める（ピンク）

下ルーパー糸の糸調子を強める（青色）

糸調子を調節する場合は、以下の順番で行ってください。

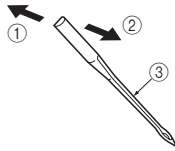
① 針糸
② 上ルーパー糸
③ 下ルーパー糸

糸調子の調節：1 本針（2 本糸）の場合

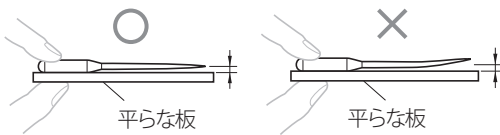
ミシン針

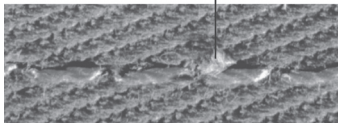
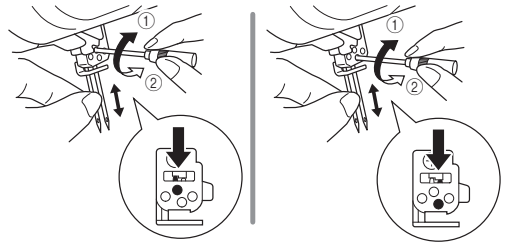
このミシンで使用するミシン針には、HLx5 (#11 または #14) を推奨します。

ミシン針の見方

① 後ろ側（平らな面） ② 手前側 ③ 長みぞ

正しいミシン針の見分け方

針が曲がった状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。使用する前に、針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。

すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。

お知らせ

ボールポイント針をご使用いただくと、布地の織り糸切れを防ぐことができます。

ミシン針の交換

① しめる ② ゆるめる

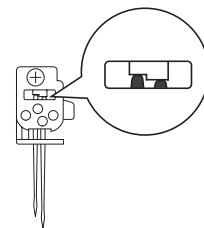
取り外し方：

1. 電源スイッチを切ります。
2. プーリーを手前に回して、プーリーの印をミシン本体側の "糸通し" の位置に合わせます（針が一番高い位置に上がります）。
3. 付属のドライバーを使って、外したい針の針締めねじをイラストの ② の方向に回してゆるめ、ミシン針を外します。

取り付け方：

1. 電源スイッチを切ります。
2. プーリーを手前に回して、プーリーの印をミシン本体側の "糸通し" の位置に合わせます（針が一番高い位置に上がります）。
3. 針の平らな面を後ろにして、上部が突き当たるまで完全にミシン針を差し込みます。
4. 付属のドライバーを使って、針締めねじをイラストの ① の方向に回してしめ、ミシン針を取り付けます。

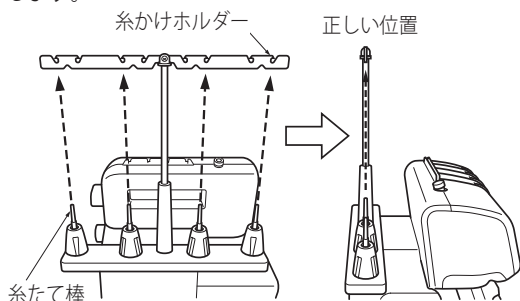
お知らせ

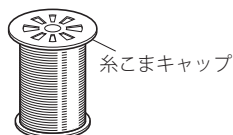
ミシン針は完全に差し込んでください。
ミシン針が正しく差し込まれると、下記イラストのように、右針が左針より少し下になります。

⚠ 注意

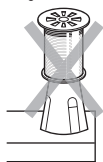
- ミシン針の交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- ミシン針や針締めねじを針穴に落とさないように注意してください。故障の原因になります。

第 2 章
糸通しの前準備

糸かけの準備

糸かけを一番高い位置まで引き伸ばします。下図のように、糸かけホルダーが糸たて棒の真上にあることを確認します。

糸こまキャップ

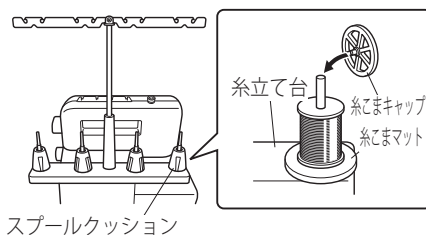
このミシンは、チーズ巻き糸と、こま巻き糸が使用できます。こま巻き糸を使うときは、スプールクッションを外し、下図のように糸止めみぞのあるほうを下にして糸たて棒にさし、必ず糸こまキャップを使います。

⚠注意

- こま巻き糸を使うときは、必ずスプールクッションを外してください。

- チーズ巻き糸を使うときは、必ずスプールクッションを使ってください。
- 糸こまキャップを奥までいっぱいに押し込んでいないと、糸たて棒に糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

糸こまマット

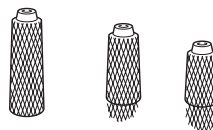
こま巻きタイプの糸、糸がすべり落ちやすいウーリー糸などを使用するときは、このマットを糸こまの下に敷いてお使いください。
糸がたれ落ちて糸立て棒にからまることをふせぐことができます。

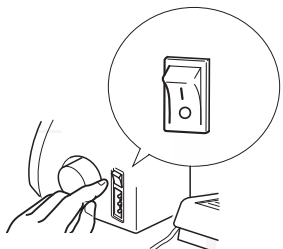
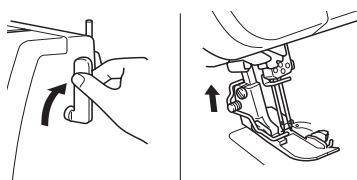
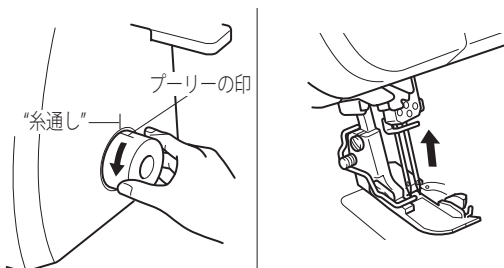
糸こまマットの使い方

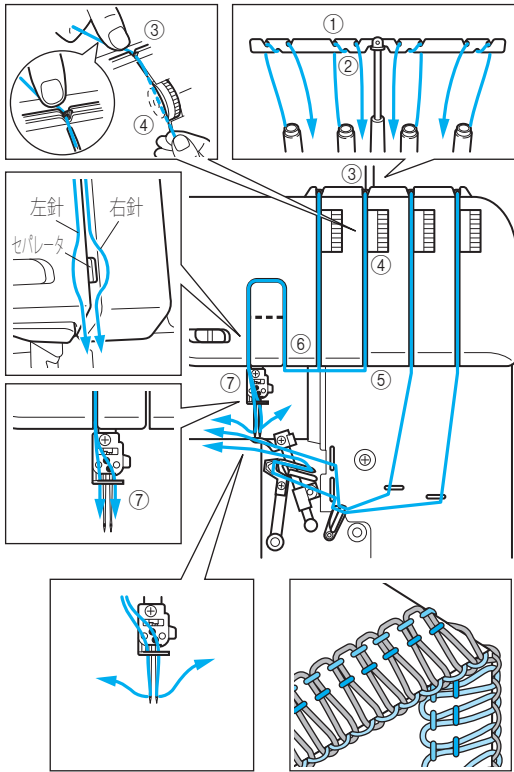
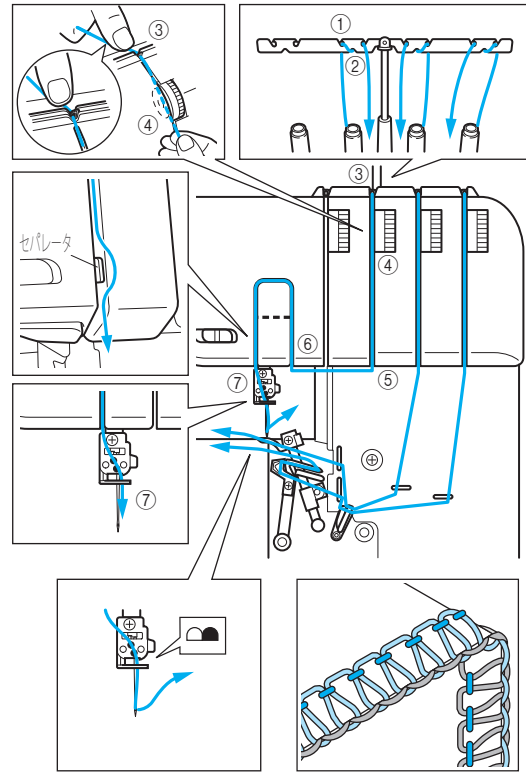
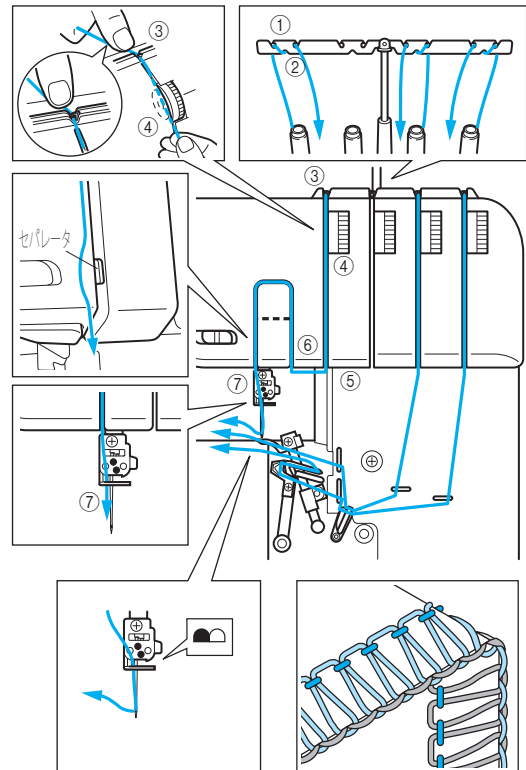
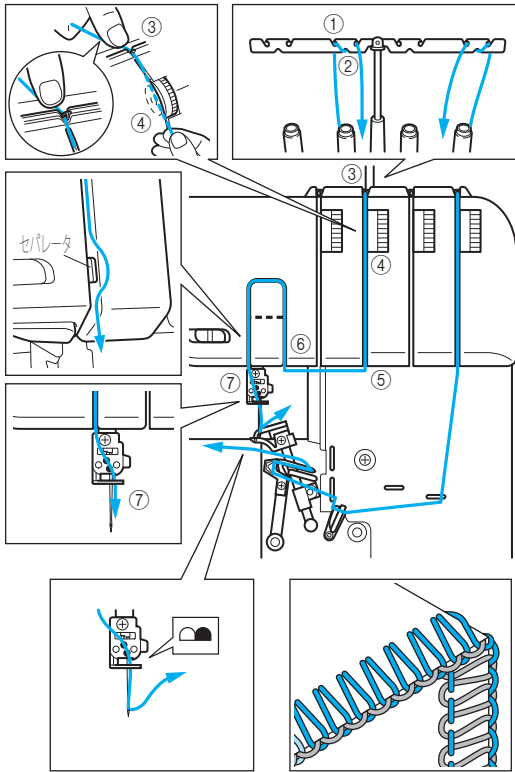
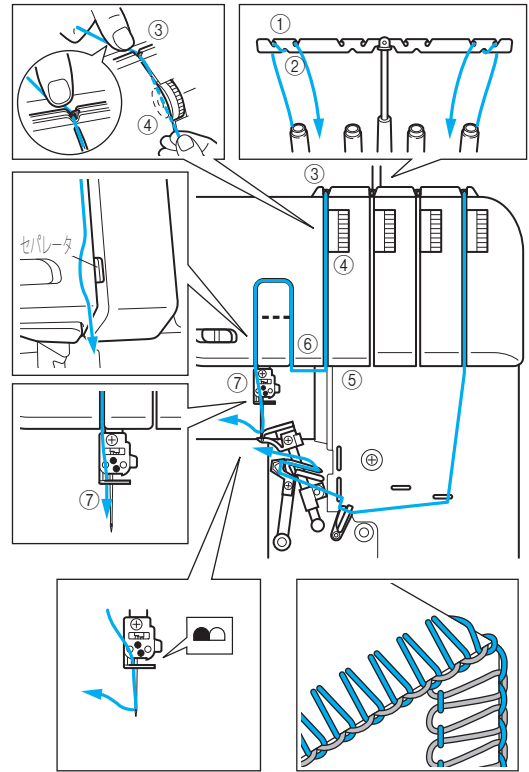
スプールクッションを外し、糸こまマットを糸立て棒につけます。
糸こまを、糸止めみぞのある側を下にして糸立て棒にはめ、その上から糸こまキャップを奥いっぱいまで押し込み取り付けます。

注意

- こま巻きの場合は糸こまキャップを糸こまにつくように奥までいっぱいに押し込んでいないと、糸立て棒に糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

ネット

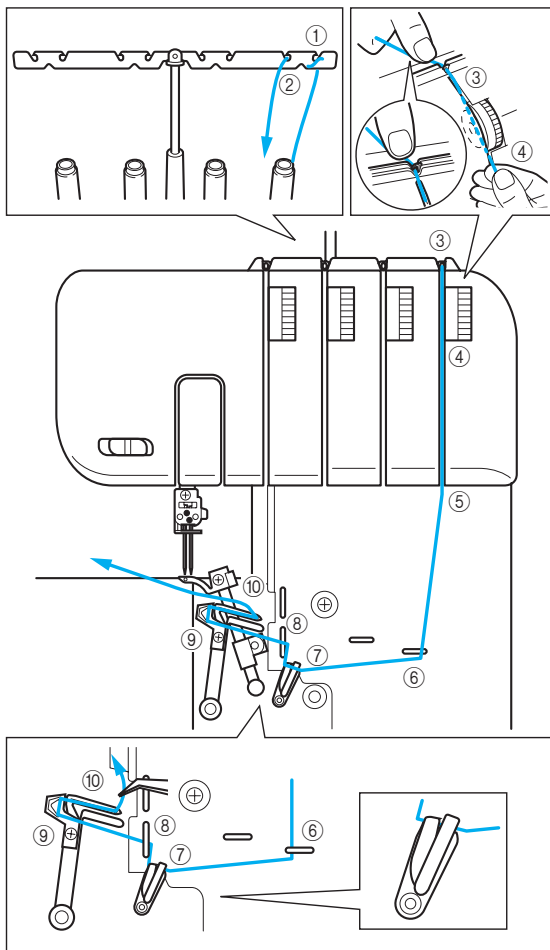
ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属のネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。ネットは、糸こまの大きさに合わせて使用します。

糸通しの前に

1. 安全のため、電源スイッチを切ります。

2. 押え上げレバーを使って、押えを上げます。

3. プーリーを回し、プーリーの印をミシン本体側の“糸通し”の位置に合わせます（第1章「プーリーの使い方」参照）。

第 3 章
糸通し

2 本針（4 本糸）縁かがりの使用糸

1 本針（3 本糸）縁かがり（右針）の使用糸

1 本針（3 本糸）縁かがり（左針）の使用糸

1本針（2本糸）縁かがり（右針）の使用糸

1本針（2本糸）縁かがり（左針）の使用糸

糸通しは、以下の順番で行ってください。

1. 下ルーパー糸
2. 上ルーパー糸
3. 左針糸
4. 右針糸

下ルーパーに糸を通す

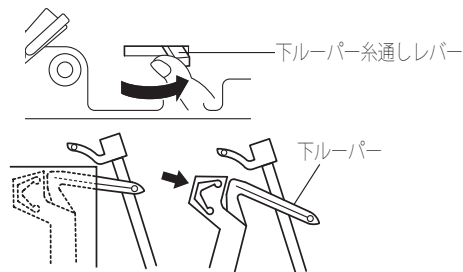
ミシンに青色で示した矢印と番号に従って、糸を通していきます。

1. 前カバーを右にスライドさせ、前に倒して開きます。
2. 糸こまから糸を引き出し、後ろから前へ、糸かけの糸かけホルダー ①、糸かけホルダー ② の順に糸を通します。
3. 糸をミシン上部の糸案内 ③ に通します。
4. 青色の糸調子ダイヤルの横の糸調子皿 ④ に糸を通します。
5. 糸を引き下げ、ミシンに記された青色の矢印と番号に従って上図の ⑤⑥⑦⑧ に糸を通します。

お知らせ

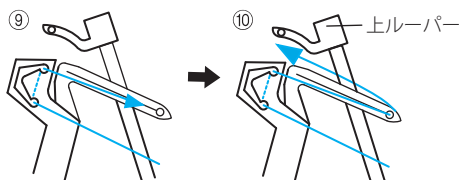
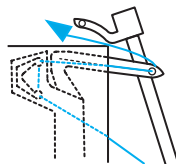
ルーパー用糸取り ⑦ の両方に糸が通っていることを確認してください。

6. ミシン針が一番高い位置にあることを確認します。下ルーパー糸通しレバーを右にスライドさせます。下ルーパーが下図のように移動します。

⚠注意

下ルーパー糸通しレバーをスライドさせる前に、必ずミシン針が一番高い位置にあることを確認してください。

⚠注意

下ルーパー糸通しレバーを、無理に左にスライドさせないでください。故障の原因になります。（スライドさせるときは、必ず上記イラストの矢印方向にスライドさせてください。）

7. 左図のように糸を通します ⑨。
右図のように、糸を下ルーパーの糸通し穴に通し、上ルーパーの左下へくぐらせます ⑩。

8. プーリーを手前にゆっくりと回し、下ルーパーが元の位置に戻ることを確認します。

⚠注意

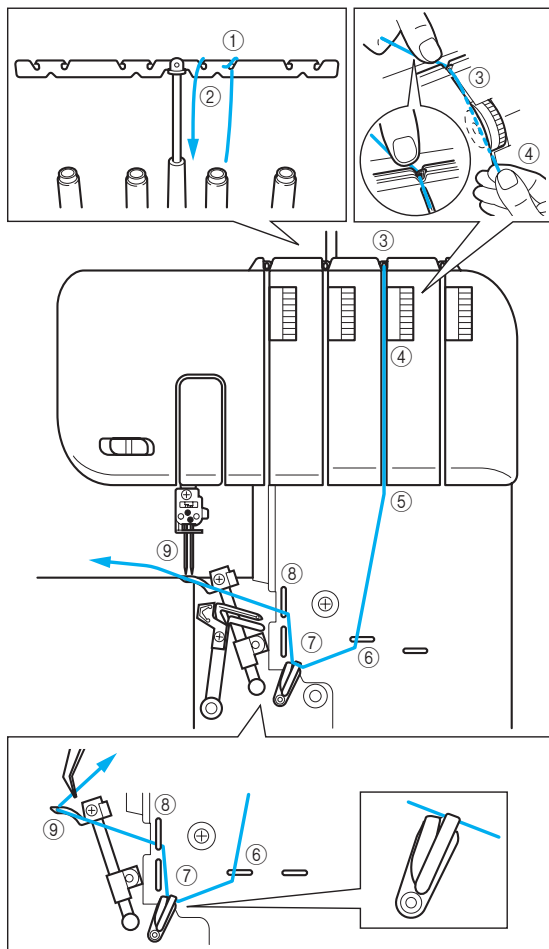
プーリーは必ず手前に回してください。後ろに回すと下ルーパーが戻らなくなります。

お知らせ

ミシンを運転しているときに下ルーパー糸が切れた場合は、糸を切って両方のミシン針から糸を取り外してください。

再度下ルーパーに糸を通すときは、手順に従って正しく行ってください。糸通しの手順が間違っていると、正しくぬうことができません。

上ルーパーに糸を通す

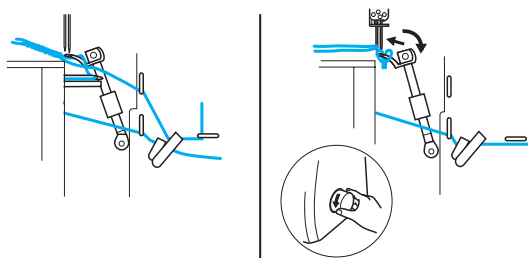
ミシンにピンク色で示した矢印と番号に従って、糸を通していきます。

1. 前カバーを右にスライドさせ、前に倒して開きます。
2. 糸こまから糸を引き出し、後ろから前へ、糸かけの糸かけホルダー ①、糸かけホルダー ② の順に糸を通します。
3. 糸をミシン上部の糸案内 ③ に通します。
4. ピンク色の糸調子ダイヤルの横の糸調子皿 ④ に糸を通します。
5. 糸を引き下げ、ミシンに記されたピンク色の矢印と番号に従って上図の ⑤⑥⑦⑧ に糸を通します。

お知らせ

ルーパー用糸取り ⑦ の右側にのみ糸が通っていることを確認してください。

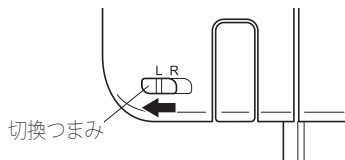
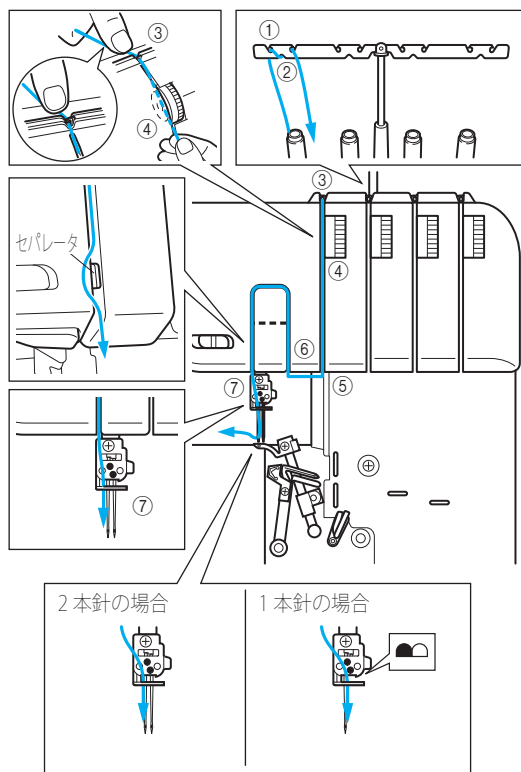
6. 上ルーパーの糸通し穴 ⑨ に糸を通します。

お知らせ

ミシン運転中に上ルーパー糸が切れたら：
下ルーパー糸が上ルーパーに引っかかっている可能性があります。プーリーを手前に回して上ルーパーを下げ、上ルーパーに引っかかっている下ルーパー糸を取り除き、上ルーパー糸をかけなおします。
再度上ルーパーに糸を通すときは、手順に従って正しく行ってください。糸通しの手順が間違っていると、正しくぬうことができません。

⚠ 注意

- 安全のため、糸通しは、必ずミシンの電源スイッチを切った状態で行ってください。
- 糸通しをはじめる前に、プーリーを回し、プーリーの印をミシン本体側の“糸通し”の位置に合わせてください。（第 1 章「プーリーの使い方」参照）

左針に糸を通す

1. 切換つまみを左にスライドさせ、“L” 印の位置に合わせます。

2. ミシンに黄色で示した印と番号に従って、糸を通していきます。

a) 糸こまから糸を引き出し、後ろから前へ、糸かけの糸かけホルダー ①、糸かけホルダー ② の順に糸を通します。

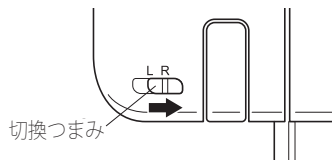
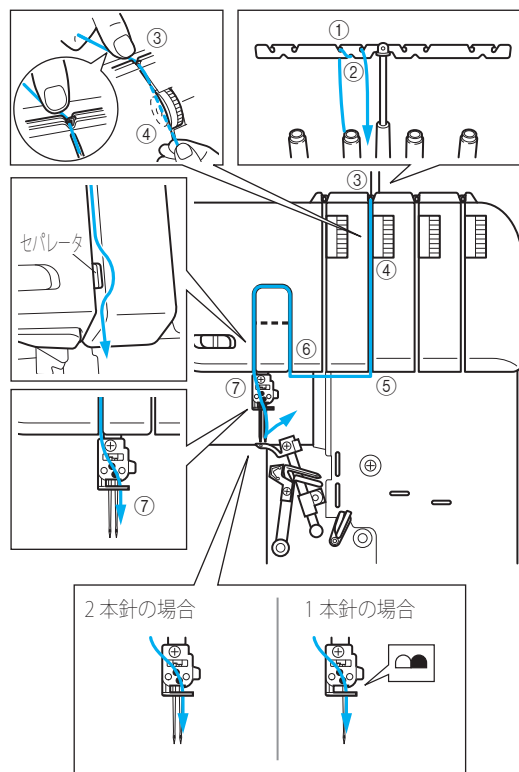
b) 糸を両手で保持しながら、ミシン上部の糸案内 ③ に通します。次に、黄色の糸調子ダイヤル横の糸調子皿 ④ に糸を通します。

c) ミシンに記された黄色の印と番号に従って上図の ⑤⑥⑦ に糸を通します。

お知らせ

糸はセパレーターの左側に通してください。

右針に糸を通す

1. 切換つまみを右にスライドさせ、“R” 印の位置に合わせます。

2. ミシンにピンク色で示した印と番号に従って、糸を通していきます。

a) 糸こまから糸を引き出し、後ろから前へ、糸かけの糸かけホルダー ①、糸かけホルダー ② の順に糸を通します。

b) 糸を両手で保持しながら、ミシン上部の糸案内 ③ に通します。次に、緑色の糸調子ダイヤル横の糸調子皿 ④ に糸を通します。

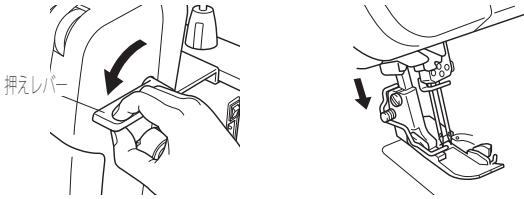
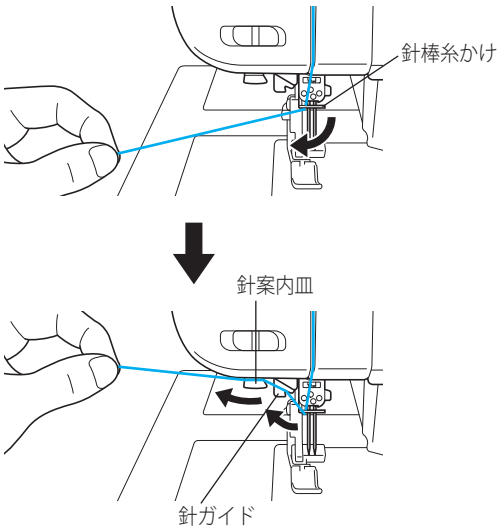
c) ミシンに記された緑色の印と番号に従って上図の ⑤⑥⑦ に糸を通します。

お知らせ

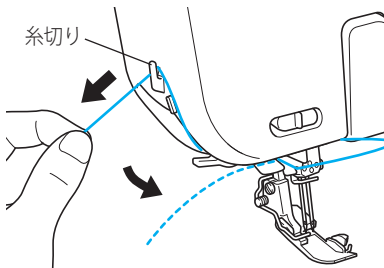
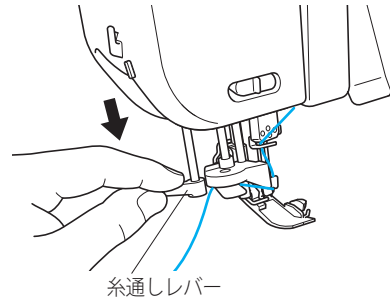
糸はセパレーターの右側に通してください。

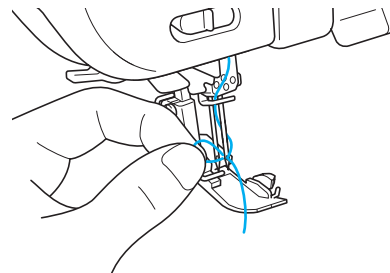
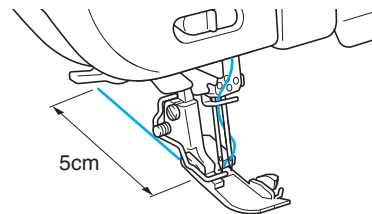
糸を針に通す（糸通し装置を使う）

糸通し装置を使えば、ワンタッチのレバー操作で糸通しが行えます。

1. 押えレバーを下げて、押えを下げます。

2. 針棒糸かけにかけた糸の端を左へ引き、糸ガイドのミゾに糸をかけます。糸案内皿のすき間に手前から糸をしっかり奥まで入れます。

お知らせ

糸が糸ガイドのミゾに確実に通っていることを確認してください。

3. ミシン本体左側面の糸切りに糸を引っかけて切ります。

4. ミシン本体左側面の糸通しレバーをいっぱいまで下げます。

糸が針穴に通ります。

5. 糸通しレバーをゆっくりと上へ戻します。
6. 針穴に通った糸の、輪になった部分を持ってゆっくりと引き、糸の端を引き出します。

7. 押えレバーを上げ、糸の端を押えの間に通し、後ろ側へ 5cm ほど引き出します。

第 4 章
布地、糸、ミシン針対応表

布地	ぬい目	ぬい目の長さ (mm)	糸	ミシン針
薄地 ジョーゼット ローン オーガンジー トリコット	かがりぬい	2.0 - 3.0	スパン糸 #80 - 90 綿糸 #100 フィラメント糸 #80 - 100	HLx5 #11
薄地 ジョーゼット ローン オーガンジー トリコット	細ロック、 巻きぬい	R - 2.0	針糸： スパン糸 #80 - 90 フィラメント糸 #80 - 100 下糸： ウーリー糸 スパン糸 #80 - 90 フィラメント糸 #80 - 100	HLx5 #11
普通地 ブロード ギャバジン サージ	かがりぬい	2.5 - 3.5	スパン糸 #60 - 80 綿糸 #60 - 80 フィラメント糸 #60 - 80	HLx5 #14
普通地 ブロード	細ロック、 巻きぬい	R - 2.0	針糸： スパン糸 #60 - 80 フィラメント糸 #60 - 80 下糸： ウーリー糸 スパン糸 #60 - 80 フィラメント糸 #60 - 80	HLx5 #14
厚地 ツイード デニム ニット	かがりぬい	3.0 - 4.0	綿糸 #50 - 60 スパン糸 #60 フィラメント糸 #50 - 60	HLx5 #14

お知らせ

装飾糸を使う場合は、上ルーパー糸として使うと仕上がりが美しくなります。

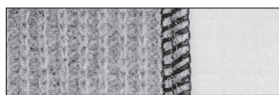
第 5 章
ぬってみましょう

ステッチを選ぶ

実際にぬい始める前に、ステッチを選びます。本ミシンでぬえるステッチは、以下の通りです。

4 本糸縁かがり

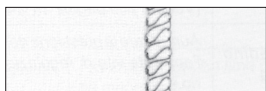
4 本の糸と 2 本の針を使います。

丈夫なぬい目ができます。ニットや織物をぬうのに最適です。

3 本糸縁かがり (5mm)

3 本の糸と左針を使います。かがり幅が 5mm になります。

スーツやブラウス、スラックスなどに使います。普通地から厚地の素材をぬうのに最適です。

お知らせ

このステッチをぬうときは、右針を取り外してください。

3 本糸縁かがり（2.8mm）

3 本の糸と右針を使います。かがり幅が 2.8mm になります。

スーツやブラウス、スラックスなどに使います。薄地から普通地の素材をぬうのに最適です。

お知らせ

このステッチをぬうときは、左針を取り外してください。

2 本糸縁かがり（5mm）

2 本の糸と左針を使います。かがり幅が 5mm になります。

スーツやブラウス、スラックスなどに使います。薄地から普通地の素材をぬうのに最適です。

お知らせ

このステッチをぬうときは、右針を取り外してください。

2 本糸縁かがり（2.8mm）

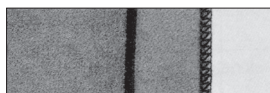
2 本の糸と右針を使います。かがり幅が 2.8mm になります。

スーツやブラウス、スラックスなどに使います。薄地から普通地の素材をぬうのに最適です。

お知らせ

このステッチをぬうときは、左針を取り外してください。

細ロックぬいと巻きぬい

装飾や仕上げに使います。詳しくは、本章「細ロックぬい、巻きぬいをする」を参照してください。

フラットロック

装飾や仕上げに使います。ぬいあがった布を引っ張ると、はしご模様になります。

お知らせ

別売りの押えを使うと、より多彩なステッチがぬえます。

試しぬいをする

実際の作品をぬう前に、試しぬいをします。

1. 糸調子を以下のようにセットします。

   ＜4 本糸縁かがり /3 本糸縁かがりの場合＞

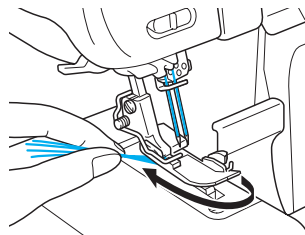
   糸調子をすべて「4」にセットします。

   ＜1 本針（2 本糸）縁かがりの場合＞

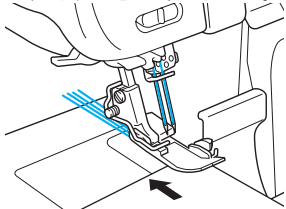
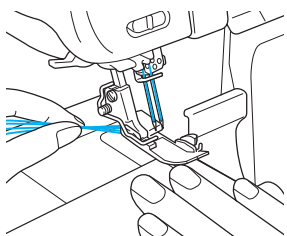
   ・針糸の糸調子を「2」にセットします。

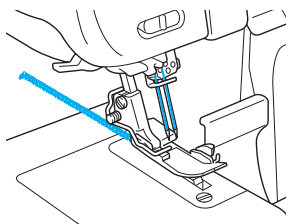
   ・下ルーパー糸の糸調子を「6」にセットします。

   （本章「2 本糸縁かがり設定表」参照）

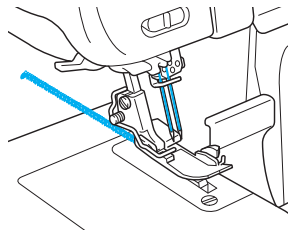
2. ミシンに糸を通し、すべての糸を 15cm ほど押えの後ろへ引き出します。

3. 押え上げレバーを上げ、試しぬい用の布をセットし、押え上げレバーを下げます。

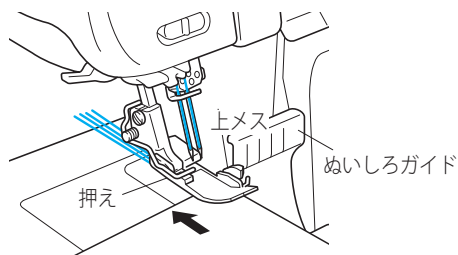
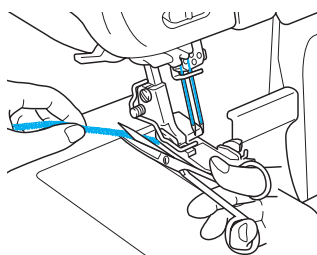
お知らせ

押えの下に布をセットするときは、必ず押えを上げた状態で行ってください。押えを上げずに布を置いただけでは、ぬうことはできません。

4. 左手ですべての糸をつまみ、プーリーをゆっくりと数回手前に回して糸のからみぐあいを確かめてから、ゆっくりとフットコントローラーを使ってぬい始めます。

ぬい始める

1. 試しぬいが終わったら、そのまま押えを上げずにゆっくりと 10cm ほど「からぬい」(布地をぬわず、糸だけをからませること)します。糸は自動でからみます。

お知らせ

糸調子の設定が不適切だと、からぬいのぬい目が均等になりません。この場合、糸を軽く引いてぬい目を均等にしてください。また、糸通しの手順を再確認し、適正な糸調子に調節してください(第 1 章「糸調子を調節する」参照)。

2. からぬいしてできたチェーンを後ろへ出しておきます。

3. 押え上げレバーを上げて布をセットし、押え上げレバーを下げます。フットコントローラーを踏み、ゆっくりぬい進めます。
4. ぬい目が均一かどうか確認します。ぬい目が均一でない場合は、糸通しが手順どおり正しくできているか再確認します。
5. ぬいしろガイドを目安に、かがり幅が一定になるようにぬい進めます。ぬいしろガイドの目盛は、以下の通りです。

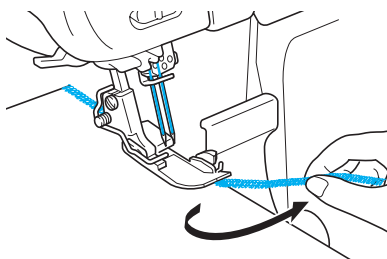
   かがり幅調節ダイヤルを「5」にセットした状態で 9.5mm、12.7mm、15.9mm、25.4mm になります。

6. ぬい終わったら、ミシンを低速で運転し、からぬいします。布端から約 5cm のチェーンを残して布を外します。チェーンの長さが十分でないときは、糸をゆっくりと引っぱって伸ばし、ハサミで切っておきます。

ぬい始めと終わりのほつれ止め

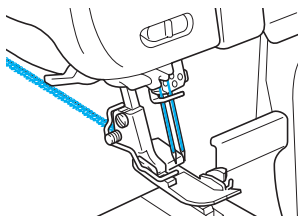
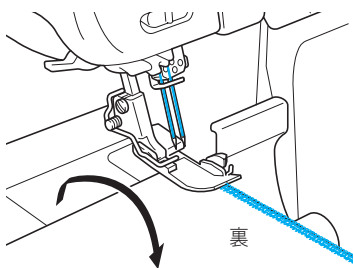
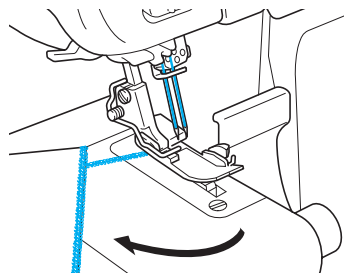
ほつれ止めをするには、4 つの方法があります。

方法 1

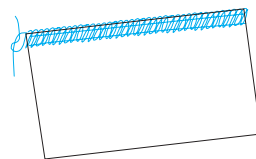
以下の手順で、ミシンを使ってぬい始めとぬい終わりのぬい目をそれぞれ固定します。

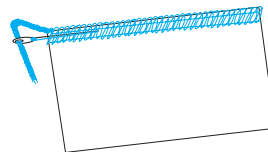
ぬい始め

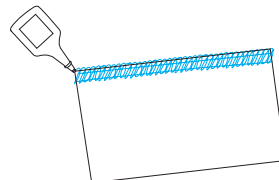
1. 約 5cm からぬいした後、布地を数針ぬいます。
2. ミシンを止め、押え上げレバーを上げます。
3. 押えの下にチェーンをセットし、押え上げレバーを下げ、チェーンの上を重ねぬいします。
4. 図のように余分なチェーンをメスで切りながらぬい進めます。

ぬい終わり

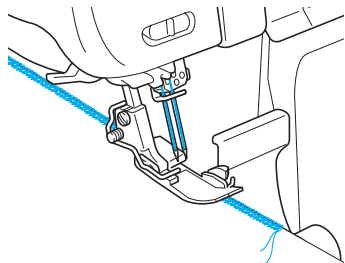
1. ぬい終わりまできたら、布端から 1 針分外に針を落としてから、ミシンを止めます。

2. 押え上げレバーを上げ、ミシン針を上げます。布地を裏返します。

3. ミシン針を下げ、その位置で押え上げレバーを下げます。
4. ぬい目をメスで切らないように注意しながら、ぬい目の上を重ねぬいします。
5. 数針重ねぬいしたら、布地を外します。

6. ハサミで余分な糸を切ります。

方法 2

ぬい目からほどいた糸を結んで、ほつれ止めします。

方法 3

とじ針を使って、ぬい終わりのぬい目に差し込んでほつれ止めします。

方法 4

手芸用ボンドで固定して、ボンドが乾いたら余分なぬい目を切ります。

裁縫中に糸切れしたとき

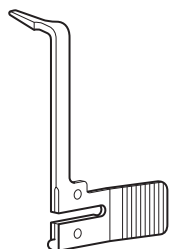
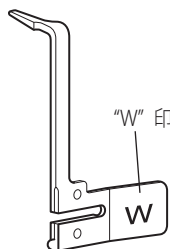
布を押えから外して糸を切ります。下ルーパー、上ルーパー、右針、左針の順番で、正しく糸通しをします（第3章「糸通し」参照）。糸切れしたところから 3~5cm 手前部分に布地を再度セットし、ぬい目の上を重ねぬいします。

⚠ 注意

まち針を布地に刺したままぬわないでください。メスを傷つけたり、針が折れてけがをしたりするおそれがあります。

薄地をぬう

1. ぬい縮みを防ぎ、カーブもスムーズにぬえるよう、押え圧を調節します（第 1 章「押え圧を調節する」参照）。
2. 糸調子をゆるめます。ゆるめすぎると糸切れし、ぬい目がとぶ可能性があるので注意してください。

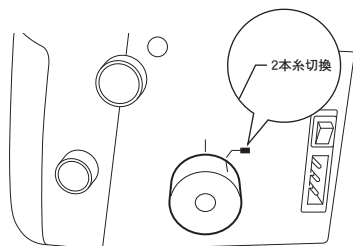
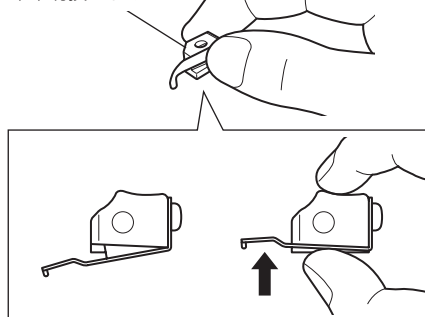
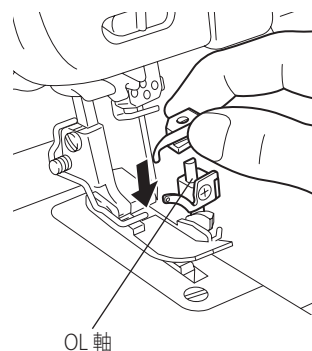
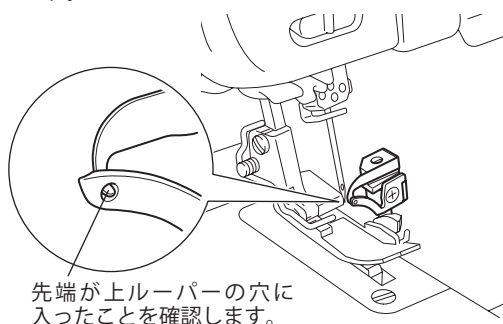
ステッチタング W の使い方

出荷時には、ステッチタング（標準）が取り付けられています。伸縮性のある布地をぬう場合は、付属のステッチタング W（幅広）を使用してください。糸調子を変更せずに、布地を伸縮させずにぬうことができます。

2 本糸縫製

2 本糸切換つまみの取り付けかた

お知らせ

2 本糸切換つまみは、必ず糸通し装置を使って糸通しを完了させた後でミシンに取り付けてください。（2 本糸切換つまみがミシンに取り付けられた状態では、糸通し装置を使うことができません。）

1. 安全のため、ミシンの電源スイッチを切ります。
2. プーリーを回し、プーリーの印をミシン本体側の “2 本糸切換” 位置に合わせます。

3. 2 本糸切換つまみを指先で強くつかみ、下図のようにすき間のない状態にします。

4. 2 本糸切換つまみを強くつかんだまま、2 本糸切換つまみの穴を OL 軸の先端に押し付け、そのまま 2 本糸切換つまみを OL 軸に通します。

5. 2 本糸切換つまみの先端が上ルーパーの穴に入るまで、2 本糸切換つまみを下いっぱいまで押し込みます。

これで取り付け完了です。

2 本糸縁かがり設定表

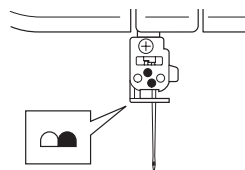
ぬい目の長さ	3	
かがり幅	5 - 7	
ステッチタング	取り付ける	
糸調子	薄地用	普通地用
左針糸	2 (1 - 3)	2 (1 - 3)
下ルーパー糸	6 (5 - 7)	6 (5 - 7)
右針糸	2 (1 - 3)	2 (1 - 3)
下ルーパー糸	6 (5 - 7)	6 (5 - 7)

細ロックぬい、巻きぬいをする

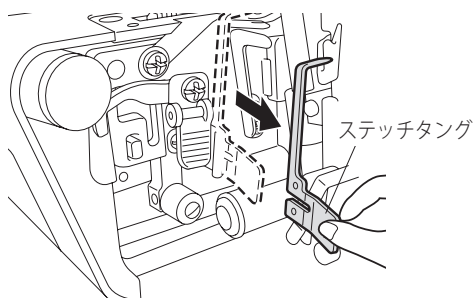
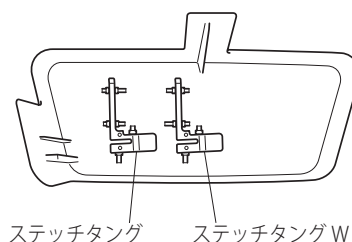
細ロックぬいと巻きぬいは、布端の処理に使われることが多く、薄地や普通地の装飾ぬいに最適です。左ミシン針を外して 3 本の糸でぬいます。

⚠ 注意

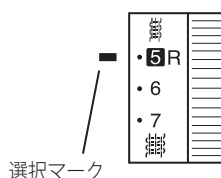
! ミシン針の取り外し、取り付けの前には、必ず電源スイッチを切ってください。

1. 左ミシン針を取り外します。

お知らせ

適切な糸とミシン針については、第 4 章「布地、糸、ミシン針対応表」を参照してください。

2. 糸通しをします（第 3 章「右針に糸を通す」参照）。
3. 以下の手順でステッチタングを外します。
   ① 押え上げレバーで押えを上げます。
   ② すべての糸をミシンの後ろへ引き出します。
   ③ ステッチタングの周りに糸がからまっていないことを確認します。
   ④ 前カバーを開きます。
   ⑤ プーリーを手前に回し、上ルーパーを一番下の位置に下げます。
   ⑥ ステッチタングをつまみ、矢印方向に引いて外します。

4. 取り外したステッチタングまたはステッチタング W は、補助テーブル内の収納スペースに保管します。

お知らせ

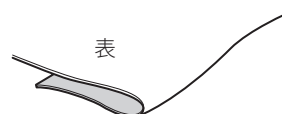
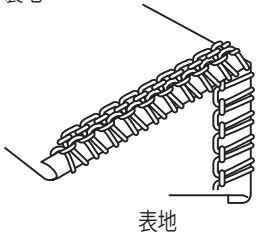
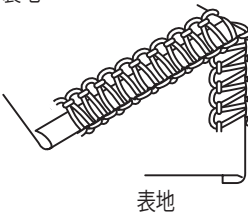
通常のかがりぬいは、必ずステッチタングをつけた状態でぬってください。

5. かがり幅調節ダイヤルを「R」にセットします。

6. ぬい目の長さ（ステッチの長さ）を調節します。
   ぬい目の長さ調節ダイヤルを R~2 にセットします（細ロックぬいの場合：R~2、巻きぬいの場合：R）。

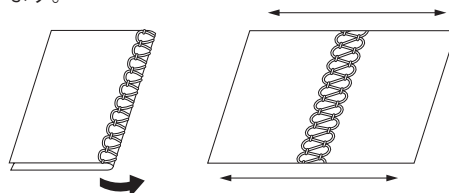
フラットロック

フラットロックは装飾ぬいに使います。フラットロックをぬうときは、通常以下のように設定するときれいに仕上がります。右ミシン針を外して 3 本の糸でぬいます。

- かがり幅：5 ～ 7mm
- ぬい目の長さ：2 ～ 4mm
- 針糸の糸調子：0 ～ 3
- 上ルーパー糸の糸調子：5 ～ 8
- 下ルーパー糸の糸調子：6 ～ 9

1. 布を図のように折ります。

2. メスを倒します（第 1 章「布を切らずにぬう」参照）。

お知らせ

布端をカットしながらぬう場合は、メスを倒す必要はありません。

3. プーリーを手前に回し、プーリーの印をミシン本体側の “糸通し” の位置に合わせます（針が一番高い位置に上がります）。
4. 押え上げレバーを上げ、布の折り山上にぬい目ができるように布をセットします。
5. 押え上げレバーを下げます。
6. まっすぐにぬい進め、ぬい終わったらぬい目を開きます。

細ロックぬい／巻きぬいの設定表

	巻きぬい		細ロックぬい	
ぬい目	裏地 表地		裏地 表地	
布地	第 4 章「布地、糸、ミシン針対応表」参照。		第 4 章「布地、糸、ミシン針対応表」参照。	
針糸	第 4 章「布地、糸、ミシン針対応表」参照。		第 4 章「布地、糸、ミシン針対応表」参照。	
上ルーパー糸	第 4 章「布地、糸、ミシン針対応表」参照。		第 4 章「布地、糸、ミシン針対応表」参照。	
下ルーパー糸	第 4 章「布地、糸、ミシン針対応表」参照。		第 4 章「布地、糸、ミシン針対応表」参照。	
ぬい目の長さ	R		R - 2.0	
かがり幅	R		R	
ステッチタング	取り外す		取り外す	
糸調子	薄地用	普通地用	薄地用	普通地用
針糸	4 (3 - 5)	5 (4 - 6)	4 (3 - 5)	5 (4 - 6)
上ルーパー糸	5 (4 - 6)	5 (4 - 6)	5 (4 - 6)	6 (5 - 7)
下ルーパー糸	7 (6 - 8)	7 (6 - 8)	5 (4 - 6)	6 (5 - 7)

第 6 章
困ったときは

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に以下の項目を確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」0120-340-233 にご相談ください。

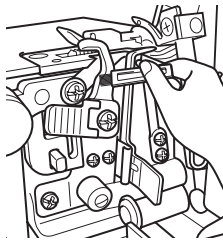
不具合	原因	解決方法
1. 布を送らない	1. 糸が不必要な箇所にからんでいる。	正しく糸通しをする（P13~18 参照）。
	2. 押え圧が弱すぎる。	押え圧調節ねじを時計回りに回して、押え圧を強める（P7 参照）。
2. ミシン針が折れる	1. ミシン針が曲がっている。または針先がつぶれている。	新しいミシン針と交換する（P10 参照）。
	2. ミシン針が正しく取り付けられていない。	ミシン針をを正しく取り付ける（P10 参照）。
	3. 布地を無理やり引っ張っている。	縫製中、布地を強く押したり引っ張ったりしない。
3. 糸が切れる	1. 糸通し方法が間違っている。	正しく糸通しをする（P13~18 参照）。
	2. 糸がからまっている。	糸こま、糸かけホルダーなどを確認し、からまっている糸をほどく。
	3. 糸調子が強すぎる。	糸調子を調節する（P7~9 参照）。
	4. ミシン針が正しく取り付けられていない。	ミシン針を正しく取り付ける（P10 参照）。
	5. 正しいミシン針を使用していない。	正しいミシン針を使う（P10 参照）。 （推奨するミシン針：HLX5）
	6. 2 本糸切換つまみの先端が上ルーパーの穴に入っていない。	2 本糸切換つまみの先端を上ルーパーの穴に入れる（P23~24 参照）。
4. ぬい目がとぶ	1. ミシン針が曲がっている。または針先がつぶれている。	新しいミシン針と交換する（P10 参照）。
	2. ミシン針が正しく取り付けられていない。	ミシン針を正しく取り付ける（P10 参照）。
	3. 正しいミシン針を使用していない。	正しいミシン針を使う（P10 参照）。 （推奨するミシン針：HLX5）
	4. 糸通し方法が間違っている。	正しく糸通しをする（P13~18 参照）。
	5. 押え圧が弱すぎる。	押え圧調節ねじを時計回りに回して、押え圧を強める（P7 参照）。
	6. 2 本糸切換つまみの先端が上ルーパーの穴に入っていない。	2 本糸切換つまみの先端を上ルーパーの穴に入れる（P23~24 参照）。
5. ぬい目が均一でない	糸調子が適切に調節されていない。	糸調子を調節する（P7~9 参照）。
6. ぬい縮みがある	1. 糸調子が強すぎる。	軽量または薄手の布地をぬうときは、糸調子を弱める（P7~9 参照）。
	2. 糸通し方法が間違っている、または糸がからまっている。	正しく糸通しをする（P13~18 参照）。
7. 布地の切れ味が悪い	刃先が摩耗している。	新しいメスと交換する必要があります。 お近くのブラザー販売店にご相談ください。

第 7 章
お手入れ

掃除

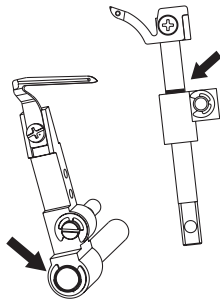
⚠注意

- 掃除をするときは、事前にミシンの電源スイッチを切ってください。
- プーリーを手前に回して、ミシン針を下げてから掃除を行ってください。

ミシン使用後に、付属のミシンブラシを使ってほこりや糸くずなどを取り除きます。

注油

なめらかで静かな作動状態を保つため、定期的に動作部分（矢印）にミシン油をさします。ミシン油は市販のものをご使用ください。

⚠注意

- ミシンの電源スイッチを切ってから前カバーを開け、ミシン油を 1、2 滴さしてください。ミシン油は指定箇所以外にはささないでください。

お知らせ

ミシンを使用する前に注油してください。

注油の前に、必ずミシンについている糸くず、ほこりなどをふき取ってください。

月に 1、2 回は、ミシンに注油してください。ミシンを頻繁に使う場合は、週に 1 回注油してください。

仕様

項目	仕様
ぬい速度	最速 1,300 針／分
かがり幅	5mm 〜 7mm（標準：5mm）
ぬい目の長さ	R 2mm 〜 4mm
押えが上がる高さ	5mm 〜 6mm
ミシン針	HLx5（#11: 2 本、#14: 2 本）
対応糸数とミシン針数	2 本糸／ 3 本糸／ 4 本糸 2 本針／ 1 本針
製品質量	6 kg
ミシン寸法	幅 33.5cm x 高さ 29.8cm x 奥行 27.9cm
電源	AC100V 50/60Hz
定格電圧／消費電力	AC100V / 70W
ランプ	白色発光ダイオード

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製品打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

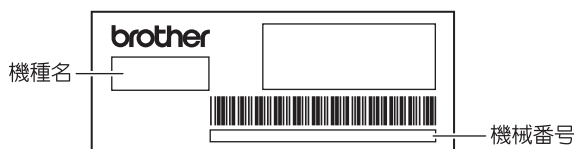
お客様相談室（ミシン 119 番）0120-340-233

本製品についての、使い方やアフターサービスについてご不明な場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」までお問い合わせください。

〒 467-8577　愛知県名古屋市瑞穂区苗代町 15-1

お客様相談室（ミシン 119 番）　TEL: 0120-340-233
FAX: 052-824-3031

受付時間：月曜日～金曜日　9：00 ～ 17：30
休業日：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室（ミシン 119 番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
  ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。

- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号および住所は、都合により変更する場合がございますので、ご了承ください。

ホームページ

ブラザーのホームページでは、家庭用ミシンに関する様々な情報を掲載しております。
http://www.brother.co.jp/

ブラザーソリューションセンターでは、家庭用ミシンに関するサポート情報を掲載しております。
http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

116-B11
XB2030001
Printed in Taiwan